

# おいでん・さんそんSHOW

1月号  
2019.1.01発行



## 『とよた里山猪肉カレー』が第5回 ディスカバー農山漁村の宝に選定

安倍首相と記念撮影。左から梅村凛音(うめむらりおん)くん、安倍首相、高山竜河(たかやまりゅうが)くん、おいでん・さんそんセンター長鈴木辰吉(すずきたつよし)

「とよた里山猪肉カレー」開発販売の取組が、内閣官房・農林水産省主催「ディスカバー農山漁村の宝」に選定されました。11月22日(木)、首相官邸において選定証授与式及び首相、農林水産大臣などとの交流会が開催され、商品開発チームを代表して足助高校3年の梅村凛音くんと高山竜河くん(うめむらりおん)と高山竜河くん(たかやまりゅうが)が企画をコーディネートしたおいでん・さんそんセンターから鈴木辰吉センター長が出席しました。



選定証を授与される鈴木辰吉センター長

安倍首相は、あいさつで次のように述べられました。「本日は、過去最高の1015件の応募の中から選ばれた方々にこうしてお集まりいただきました。うれしいことに、愛知県と福岡県からは高校生が中心となった取組が選ばれて、参加いただいています。次の時代を担う若い方々も一緒に、地域の魅力を磨き、どんどん発信していく。本当に心強い取組が始まっています」(内閣官房HPより)

首相のあいさつからも、この取組が選定された要因は、商品キャラクター「いのりん」のデザインや全校をあげての商品宣伝で活躍した高校生の若い力が大きかったようです。

翌23日(金)の日本橋における

センター長のミライのフツに  
向かって！



### 終わりは始まり

ユーラシア大陸の最果て、ポルトガルの最西端にロカ岬がある。果てしなく続く大西洋を臨む高さ140mの断崖に「ここに地果て海始まる」の詩文が刻まれた石碑が建てられている。大航海時代に東の果て『黄金の国ジパング』を目指して船を漕ぎだしたとされ、宮本輝氏の小説「ここに地終わり海始まる」のモチーフとなったこの場所にいつか立ちてみたいと思う。

明治150年の節目だった2018年が終わり、2019年が始まる。お金の量で測る世界では、もうとも豊かな国となら黄金の国ジパングが夢と希望と笑顔があふれる国と言えるだろうか。明治維新以来、150年にわたって続いた拡大と成長の歴史は物質的な豊かさとともに多くの負の社会課題を生み出してしまっ

た。都市と山村を合わせ持つ特性を生かし、地域団体がつながること、これを解決し新しい時代を切り開こうと、一般社団法人おいでん・さんそんは設立された。2019年は、当社団にとって大きな飛躍の年になる。人材育成塾「豊森なりわい塾」をトヨタ自動車(株)から引き継ぐほか、里山くらし体験館「すげの里」の運営を担う。

部会活動も大きく拡充され、ラッセルを拠点とした「里モビ互助会」の活動も始動する。それぞれの取組が重なり合って、最大の効果を生み出していく新たなステップに移行する準備が着々と進められている。

「つながる」ことが新たな価値の創造や社会課題を解決し、SDGs(持続可能な開発目標)にも貢献する好事例として評価されたといえます。

共同開発者のカレーハウスCOO吉番屋をフランチャイズ展開する(株)ワイズ、足助高校、肉処理加工施設(株)山恵の3者はもとより、商品開発会議のメンバーは、はじめ2万食以上の売上げに貢献いただいた皆さんのお陰であり、心より感謝申し上げます。

マルシェには(株)ワイズの山本庸司社長、開発担当者の田中都恵さんも合流。ここでは高校生は大活躍でした。

「つながる」ことが新たな価値の創造や社会課題を解決し、SDGs(持続可能な開発目標)にも貢献する好事例として評価されたといえます。

共同開発者のカレーハウスCOO吉番屋をフランチャイズ展開する(株)ワイズ、足助高校、肉処理加工施設(株)山恵の3者はもとより、商品開発会議のメンバーは、はじめ2万食以上の売上げに貢献いただいた皆さんのお陰であり、心より感謝申し上げます。

マルシェには(株)ワイズの山本庸司社長、開発担当者の田中都恵さんも合流。ここでは高校生は大活躍でした。

## イベント情報

### 平成30年度 いなかとまちのくるま座ミーティング

手間・コストがかかるという、一度は文明の利器にとって代わられた畜力、木、竹など自然の恵み。広がり鈍化している風、太陽、水の流れから得られる自然エネルギー。

しかし今、社会を持続可能にするため、それら自然のチカラを積極的に暮らしに取り入れる人たちがいます。実践者の話を聞き、自然のチカラを生かす暮らしについて、みんなで考えてみませんか？

●日時 | 2019年2月3日(日) 13:00 - 17:30(受付開始12:30)

●場所 | 豊田市足助交流館 豊田市足助町蔵ノ前16

●プログラム | \*第1部【定員200名】13:00オムニバストーク『暮らしに生かす 自然のチカラ』パネリスト:久津輪雅(くつわまさし)氏(岐阜県立森林アカデミー准教授) / 岩間敬(いわまたかし)氏(一般社団法人馬搬振興協会代表理事) / 井筒耕平(いづつこうへい)氏(株式会社sonraku代表取締役) / 清水潤子(しみずじゅんこ)氏(猟師・ジビエカフェMUIオーナー)

\*第2部15:00 くるま座談義:①森林部会「木づかいで変わる暮らし」【定員20名】②森林部会「馬・動物とともにある暮らし」【定員30名】③地域スモールビジネス研究会「地域のエネルギーは自分たちでツクル」【定員30名】④食と農専門部会「ヘンタイが中山間地農業を救う?」【定員30名】\*第3部【定員40名】18:00夜なべ談義(交流会) ※交流会のみ参加費(5,000円程度)が必要です。 ※詳細については、センターホームページで確認ください。 チラシのダウンロードもできます。

●参加申込 | チラシ裏面の申込票に記入の上、FAXで送信、又は次の項目を記入したメールをお送りください。①氏名②参加希望(オムニバストーク/くるま座談義【上記①~④のいずれか1つを記入】/夜なべ談義)③電話番号④メールアドレス⑤所属

●申込締切 | 1月25日(金)必着。受付後、受講案内・駐車券をお送りします。 ※応募者の個人情報、受講案内の発送など当シンポジウムの運営に使用します。今後、イベント等のご案内をさせていただく場合がございます。

●問合せ | おいでん・さんそんセンター TEL: 0565-62-0610

mail: sanson-center@city.toyota.aichi.jp

### 平成30年度 いなかとまちのくるま座ミーティング

今、見つめ直したい。

## 暮らしに生かす 自然のチカラ

参加費無料  
申込受付中

パネリストのみならず、一緒に考えてみませんか？



くつわ まさし  
久津輪 雅氏  
岐阜県立森林アカデミー  
准教授



いわま たかし  
岩間 敬氏  
(一社)馬搬振興協会  
代表理事



いづつ こうへい  
井筒 耕平氏  
(株)SONRAKU  
代表取締役



しみず じゅんこ  
清水 潤子氏  
猟師・ジビエカフェMUI  
オーナー



申込は、こちらのQRコードからも可能です。(1月4日から)

# いなか暮らし博覧会 開催レポート

11月23日(金)から12月16日(日)に行われた28プログラムから2つをご紹介します。

REPORT プログラムNO.16



## 樹木を使ったオリジナル木工教室(スツール・椅子)



気負わず木材を加工するきっかけに

12月2日(日)、秋の彩りが美しい山々に囲まれる豊田森林組合足助支所で、原木からの椅子づくり体験が行われました。

間伐ボランティアの方、昨年に続き2度目の参加というファミリー、木材について研究する学生さんなど、お子さんも含めて9名の参加でした。

まずは、様々なサイズの丸太(間伐材)の中から好きな木を選び、作りたい椅子のイメージに合わせて本体部分を切り出します。丸太を切るのにはチェーンソー。チェーンソーの扱いは危ないので、今回の講師でもある森林組合の山田政和さんとおいでん・さんそんセンター森林部会の山本薫久さんにイメージを伝えて、丸太を切ってもらいます。間伐ボランティアなどで経験のある方は、山田さんにアドバイスを受けながら、自分のチェーンソーを使って切っていました。

脚となる部分を加工して、仕上げに、グラインダーでバリを取り、表面や角を磨いたら出来上がりです。3時間ほどの作業で、それぞれ工夫やアイデアを凝らして、個性ある椅子やベンチができてきました。

「木材は簡単に加工できるので、これからも使ってもらいたい」と、講師の山田さんが話すと、参加者からは「みんなで作ると楽しい」、「残った木材を、家でも使いたい」、「遊び場で、子どもたちとワークショップ的にやるのもいいね」などの感想が聞かれ、これからの木の活用や広がりが期待できそうです。(鈴木英衣)



作品を並べて記念撮影



REPORT プログラムNO.24++



## 蒔絵(まきえ)の技でマイスプーンをつくろう



伝統の技をスプーン作りで気軽に体験

11月25日(日)、小原の寿楽荘を会場に「蒔絵体験」が開催されました。何とマイスプーンが作れて、夢とろろ御膳のランチに平畑温泉に入れてと超お得な体験プログラムで満席です。

案内人の漆芸家、安藤源一郎さんから、「昔は小原や足助では盛んに漆が栽培されており、日光東照宮の建立では三河漆が沢山使われたという記録がある」というお話がありました。

小原は和紙工芸で有名です。麻布を漆ではり合わせて仏像などを作る乾漆という技法や、和紙に漆を塗る紙胎(したい)という技法もあり、和紙工芸と漆工はつながっているそうです。

今回体験する蒔絵は、加飾の技法の一つで、漆で文様を描き、金粉などを振り掛けて文様部分に固着させる技法です。

まずは、用意して頂いたスプーンの下書きに描きたい文様を考えます。次にスプーンにえんぴつで下書きを写します。漆は粘りがあるので、えんぴつで描けるような細い線や細かい文様は描くのが難しいそうです。今回は複数の色を使うので、配色や固着させる順番も考えて、漆を塗っていきました。最後に色粉を筆で掃くように漆に乗せて、出来上がりです。

参加者の皆さん、思い思いの文様に色を乗せて、綺麗なマイスプーンが出来上がりました。(西田又紀二)



熱心に作業に取り組む参加者



説明する安藤氏(右)



個性が光るスプーンが完成



首相と握手する高校生



㈱ワイズ、足助高校、岡山恵の3者とおいでん・さんそんセンターで太田裕彦豊田市長に報告に行った



授与式の翌日は、日本橋で行われたマルシェでカレーを販売した

生が中心となった運営に温かい声援が寄せられました。  
**第2弾「猪肉和風カレー」**  
第2弾「猪肉和風カレー」は、実は「キーマカレー」の検討段階から「ロツとした肉感のあるカレー」という商品開発会議での意見を踏まえ、試作や準備が進められていました。「キーマカレー」への市場の反応を良好と認め、2018年4月と5月、2回の商品開発会議を経て、6月には商品発表会が開催されました。  
2019年度からスタートする足助高校の「観光ビジネス類型」を見据えた課外授業「地域に学ぶ」ジビエを通じての授業と抱き合わせて行われた商品発表会も、高校生の活躍が目立っていました。  
「猪肉カレー」は2018年12月までに3万7900食が製造され、2万1000食が販売されました。

### デイスカパー農山漁村の宝に選定



梅村凜音くんがデザインしたキャラクター「いのりん」



隆

た。首相と話した内容も忘れるほど緊張していたセンター長とは対照的に、2人の高校生はにこやかに談笑し、首相と握手を交わしていました。  
このプロジェクトがなければ出会うこともなかった3者がセンターの仲介でつながり、それぞれが抱える課題を解決し、地域特産品としての新たな価値と経済循環を生みました。  
そして、山里の豊かな食文化「ジビエ」の振興にも大きく貢献しました。一人では解決できないことが「つながる」ことで解決できる。センター自慢のマッチング事例となりました。(坂部友隆)

### とよた里山猪カレー 誕生物語

はじめは社員の農業研修

2016年4月、外食チェーン店をフランチャイズ経営する㈱ワイズは、センターのマッチングにより「食材の現場を知る農業研修を旭地区伊熊町の遊休農地で始めました。」

### 重い空気の第1回商品開発会議

「社業を通じた地域貢献ができないか」との相談が寄せられたのは、研修カリキュラムを終

2017年2月、センターで開催された第1回商品開発会議には、㈱ワイズ、足助高校、岡山恵(株)とよた里山ホールディング、足助観光協会、足助商工会、豊田JC、豊田市長政課が集まりました。

2017年7月の「猪肉キーマカレー」の発表会に至るまでに6回に及ぶ商品開発会議が行われました。試作品の試食やパッケージデザイン、ポスターなどの宣伝戦略、プロのデザイナーと足助高校文芸部のキャラクター検討会など、一つの商品が生まれるためには、膨大なエネルギーが必要であることを思い知ることになります。

商品発表会場となった足助高校には、太田市長はじめ、来賓、多数の報道陣が詰めかけ、高校

食をどう売り捌くか、誰がリスクを背負うかが議論されていきました。空気を一変させたのは、㈱ワイズ山本社長の一言でした。「言い出したのは私。全て当社で負担します。皆さんの協力をお願いしたい。」「猪肉カレープロジェクト」が一気に動き出しました。

2019年度からスタートする足助高校の「観光ビジネス類型」を見据えた課外授業「地域に学ぶ」ジビエを通じての授業と抱き合わせて行われた商品発表会も、高校生の活躍が目立っていました。